

ママと子の樂園づくりで少子化克服を！

●男たちの身勝手を女性にしわ寄せ

熊さん「いろいろ言うても、日本、男社会なんだよ。しかも身勝手な」

八つあん「そうじゃ、そうじゃ。一億総活躍社会とかっこよくいうてるが、人手が足らんのを、女性参加に求めただけじゃないか」

熊「そうそう、反論があるなら、なぜ、女性が子育てで一時休職し、その後職場復帰しても正規職員への道が閉ざされているんか、説明してみろ」

八「働かされて『不当差別』ば受けて…。そんなふうやから、女性に、産め、産め、いうても産むわけなかる。女性に苦労ばかし押し付けて」

熊「いや～。八つあん。えらいきびしかね～。まじめな話。そげな風で、少子化が進むと、日本、滅びの道をまっしぐらだ。歴代政権、わかっちゃいねえ」

熊「ならば、お前さんがいう、不当差別を除いたら大丈夫か。データはどうなってんだ？」

●子どもは公共財

陰の声「若者は9割程度、機会があれば結婚したいと望んでいる。結婚観や、『ほしい子ども数は二人以上』と、とても健全なんだよ。ただ、若者なので所得が低い。所得保障さえあれば二人以上は十分達成できる」

八「所得保障といっても時の政権次第だ。ちょっと弱いな。もっと理論武装できないかい」

陰の声「そう。子どもは公共財って哲学が生まれているぞ。公共財はそれなくして国家がなりたないものだ。自衛隊も、金融システムも、立法府さえも公共財だ。だから、国家が供給する責務を負う。どこの子どもかは問わない。だが子どもについては、政府が生産できない。そこで、若い男女に委託することになる。委託するからには、必要経費を与えて押し倒さねばならない。これだ。解決法は」

熊「そんな発想があるんか。驚いたねえ。ならそれで充分ってわけか」

陰の声「ちったー、おめえさん、自分で考えろ。データをそろえて」

八「ん～～。金欠病で『不本意未婚者』が4割もいるぞ。若者は未熟だからサラリーが低い。結婚資金や子育て資金を保証するのは当然なんだ」

熊「そんな潤沢なお金がどこにある？」

八「だから現代貨幣論なんだとさ。つまり、『自国通貨を発行する政府は、市場の供給能力を上限に貨幣供給をして需要を拡大できる』とする現代貨幣理論が当てはまるんだ。とすると、公債発行という国の借金を気にすることなく経済成長が実現する。結局、日本復活のためには、積極的財政支出しかないんだ」

熊「さすが。でも、それで万々歳、というわけにはまいらねえ。十分条件を満たしていないかもしれん」

●劣化する子どもの生育環境

八「そう、生育環境のことだろ。子どもにとって遊びは学び。かつてはどこもかしこも遊び場だった。今は『危険につき立ち入り禁止』の看板だらけ。子育て環境は劣化の一途。親御さんは心配だし、子どもを産むか、躊躇するわな。それに、学べないとひ弱になる。これ、民族の資質の劣化につながるぞ…」

熊「『文化資本』ってあるぞ。個人が遊びほうけて学ぶ中で身に付くものらしい。将来、小説を書く時、ネタになるんだね。だから遊びは、個人の資本になる。幼少時代は遊びほうけりゃいいんだよ」
八「でも、どこもかしこも私有物で埋められて、子どもにとってはちっとも面白くねえ」

●子どもは遊びの天才だが…

陰の声「建築家の仙田満博士は子どもの遊びの意義について【 】のように語っているぞ。

【今の日本の経済的な発展は、食べる物はなかったがあそび場にもあそび時間にも友達にも恵まれた環境に育った人々によって支えられている。(中略)しかしいま、子どもたちはあそび空間も、あそび時間も、友だちもいない。ものは豊かであっても子どもたちは幸せだろうか。二一世紀の日本は創造的な国であり続けられるだろうか。あそびの環境のことをもっともっと大人が考えなければならない。子どもたちはあそびの天才ではあるがそれを発揮できる環境にない。それは大人である私たちが作り上げてしまったものだ。私たちがそれを自覚し、子どもたちと一緒に作りなおしていくしかない。そうでないと日本の未来、いや地球の未来はない。(仙田 満著「子どもとあそび—環境建築家の眼—」岩波新書 1992 年版)】

熊「なるほどなあ。わかる、わかる。子ども目線での国づくりをやってこなかったってわけだよ。特に女性は正直だよ。これじゃあ、出産子育てを躊躇するに決まってるなあ」

熊「だからママと子の楽園づくりって話になるんだな」

陰の声「今の子どもたちは、町中の広っぱでボール遊びなんかをやっている。それも悪くないが、子どもが最高に喜ぶのがビオトープだよ。秋津洲(トンボの国の意)のトンボの幼虫に始まって生き物に接すること。メダカ、ゲンゴロウ、ミズスマシ、などの水生生物が自然に湧いてくる。子どもらがこんなにワクワクドキドキすることはない。幼少時代の感動体験はとても貴重だ。幸せ感が増幅するぞ。生まれてきてよかった、世の中に歓迎されているってことを、感覚的に感じるんだねえ」

●三つ子の魂と自然体験

【「三つ子の魂、百まで」という。長く生きながらえた諺には真理が宿っている。三つ子の魂は間違いなく生涯を支配するのだから、幼少のころ何を体験するかが極めて重要だ。

独立行政法人国立青少年教育振興機構の青少年の体験活動等に関する実態調査(平成 26 年度調査)によると、自然体験を多く持つ者ほど自己肯定感が高くなり、道德観、正義感があるという傾向が見られる。

たとえば、5 段階に分けて、「自己肯定感がある」は、自然体験最少の者が 5.4%に対し、最大の者 23%、道德観・正義感についても、12.1%に対して 48.2%である。類似調査は多く、これらの調査結果は、文部科学省関係団体の諸調査に報告されている。ちなみに某調査での道德観、正義感とは、あいさつをする、悪いことをやめさせる、席をゆずる、と答えた者となっている。

●ママと子の楽園づくり

「国破れて山河在り」

敗戦直後の故郷の山河は輝いていた。1950（昭和 25）年、少年は 4 年生。昆虫採集に明け暮れた。5 年生の春五月、一人で遠出した。その日は少年一人だった。かねてのハイキングコースから外れて脇道に入ってみた。そこでアッと驚く光景に出会った。トンボの大群が羽を黄金色に輝かせて飛んでいた。朝日が、崖の上から斜めに差し込み、光線を受けた羽が光っていた。

崖下には陽が射し込まず、日陰で飛翔するトンボは（目の錯覚で）見えなかった。

種類も違う何十何百のそれらが、舞い上がり、舞い降り、斜めに、真上に、真下に、トンボ返りをくり返しながら。もう、勇壮というか、美しいというか。ポカーンと口を開いたまま見上げていた。

いつときしてふと水平に目を転じた。そこは湿原だった。イネ科の植物が点々と生え、白や黄の花をつけていた。そして足元を見た。じっと見た。

「あれ？」何かが飛んだ。その距離せいぜい二メートル。ハチかな、と思った。さらによく見た。すると、穂の先に、赤い、小さなトンボがいた！ なんと！ 確かにトンボ。あまりにも小さい。それがハッチョウトンボとの運命の出会いだった。



ハッチョウトンボのメス(胴長 2

センチ以下。一円玉は直径 2 センチ。オスは真っ赤)。

しかし、少年が高校時代のある日、湿原には農薬がまかれて生き物すべてが滅び、稲、次いで杉が植えられて放置されてジャングル化した。全国的に環境破壊が進行した時代。少年は、悲しみのうちに故郷を後にした。

トンボを発見してから 70 年目、あの日の少年の想いに共感した有志の力でジャングルは切り開かれ、湿原の原型が戻ってきた。そして今、白髪となったあの日の少年らはトンボの生還を鶴首している。

●楽園はどのような子どもを育てたか？

あの日の少年は彼の人生を振り返ってしみじみ述懐する。

人生行路、一寸先は闇。逆境も挫折もある。しかしなお、人生を肯定的にとらえる心情は生涯変わっていない。彼の楽園が「よき、三つ子の魂」を育ててくれたからだという。

「ふる里を愛し、やがては国土を愛し、国を愛するようになった。このことに心より感謝し、さらに、愛する者のために尽くそうと、日々向上心でもって生きていける幸せをかみしめている。山あり谷あり、雨の日も曇りの日もあった。だからこそ人生とは味わい深いものなんだ」とも。

熊「そっか。毎日が晴れの日ばかりじゃ、『雫しぐれ富士をみぬ日ぞ面白き。』とはならんわな」

八「ん～～。ま、楽園の典型を見たっていうのが感想だな。楽園は全国、津々浦々にあったはずだ。少子

化克服のために復活させねばならんとすると、どうするかな、熊さん」

熊「調べてみたんだ。すると、建設コンサルタツツ協会の九州支部で『夢アイデア事業』ってのをやっている。全国から、まちづくりの夢を集め、夢の実現のために汗をかく集団だ。ここに相談してみたらどうかい。何らかのヒントをもらえるとと思うよ」

八「おう。いいアイデアだ。早速そうだんしてみっか。いい事例なんかを紹介してくれるといいがな」

●ママと子の楽園のデザイン

熊「どこでもいいんだが、ま、地方の方が熱っぽいぞ。地元大学の学生。地元有志者、よそ者、若者、馬鹿者。彼らが交流しあってアイデアを出してくれるだろうと。そうそう、共助研究会とかいったかな、長崎県の雲仙だったか、ミヤマキリシマツツジの保全活動がいい例だって」

八「じゃあ、九州各県、1か所ずつやってみっか。めでたし、めでたしだなあ。楽しいうえに、少子化が克復されるんだから。ニッポン復活、間近ってところだな」(おわり)

ご参考



2016年8月6日 左、坂下利博社長



(左) 1955年ごろのトンボの聖地。(中) ジャングル化したトンボの聖地の探検(2016年夏)。(右) 復元中のトンボの聖地(2022年現在の様子。水が澄んできた)